



EURO Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：ドイツ I f o 景況感指数 (2006年 1 月) 発表日：2006年 1 月25日 (水)

～ リスクを跳ね除ける強い改善 ～

(No. E I -26)

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 高村 正樹 (03-5221-4523)

ドイツ景況指数の推移

	I f o 景況指数			ドイツ景況指数の推移				Z E W 景況指数	
	総合	現状	期待	製造業 ex. 食品	建設業	小売業	卸売業	現状	期待
05/01	96.3	95.2	97.4	97.1	93.7	95.5	95.7	▲ 61.2	26.9
05/02	95.4	94.4	96.3	95.7	93.0	93.4	95.8	▲ 58.7	35.9
05/03	94.0	93.4	94.6	93.7	94.8	90.5	95.6	▲ 66.0	36.3
05/04	93.4	93.1	93.6	92.3	97.0	93.7	93.4	▲ 73.0	20.1
05/05	93.0	93.5	92.4	91.8	96.1	94.0	92.8	▲ 69.3	13.9
05/06	93.4	93.8	93.0	91.9	93.5	96.6	94.8	▲ 70.0	19.5
05/07	95.1	95.0	95.2	94.3	94.8	94.6	97.1	▲ 66.7	37.0
05/08	94.7	93.9	95.5	94.1	97.4	93.2	94.9	▲ 61.1	50.0
05/09	96.1	96.5	95.6	95.1	97.3	94.6	97.9	▲ 58.1	38.6
05/10	98.8	99.0	98.6	97.7	99.1	100.2	100.6	▲ 58.0	39.4
05/11	97.8	97.8	97.8	97.1	100.0	94.7	100.8	▲ 55.2	38.7
05/12	99.7	99.6	99.6	98.7	101.1	97.3	103.7	▲ 44.4	61.6
06/01	102.0	100.4	103.6	△	△	△	▼	▲ 31.6	71.0

(出所) データストリーム、ブルームバーグ

(注) 業種別指数の▼は低下、△は上昇、-は変化なしを示す。IFOコメントより推定。

2000年以来の 高水準

1月のI f o景況感指数は102.0(前月差+2.3p)と2カ月連続で上昇し、市場予想の99.8を大きく上回る結果となった。内訳を見ると現状判断指数が100.4と、6ヶ月先を示唆する期待指数も103.6と共に上昇し、ITバブルで盛り上がりを見せた2000年(年平均=100)を上回る水準となっている。業種別の動向についても特に偏った傾向は見られず、企業全体に楽観的な見方が広がっている様子が伺える。

足元ではユーロ上昇、原油価格の再騰、株価上昇の不服感など、企業家のマインドを下押しする要因が目立ち始めているが、景気回復によるポジティブ思考がそれらの懸念を打ち消したようだ。

受注拡大が期待 指数を押し上げる

業種別の数値を確認すると、卸売業を除く3業種で楽観的な見方が強まっている。製造業については、現状判断、将来見通しの両方が改善し、全体の強い上昇に繋がった。月次の経済指標では生産活動に順調な拡大が見られるほか、海外からの新規製造業受注も前年比+10%を上回る水準が続くなど好調に推移している。また、12月には中国がエアバス社に対し150機(受注額は約100億ドルと言われる)にも及ぶ大型契約を交わしており、ユーロ圏にとって景気回復の追い風となる出来事も見られている。

建設業では期待指数が特に改善したようだが、これも製造業と同様、堅調な受注の伸びが主因と考えられる。11月の建設受注は産業用が前年比+28.7%と非常に高い伸びを記録したことから、全体も同+9.1%と高い伸びを示した。国内の資本財受注が伸びていることを考えると、今後も企業による設備投資が期待される。

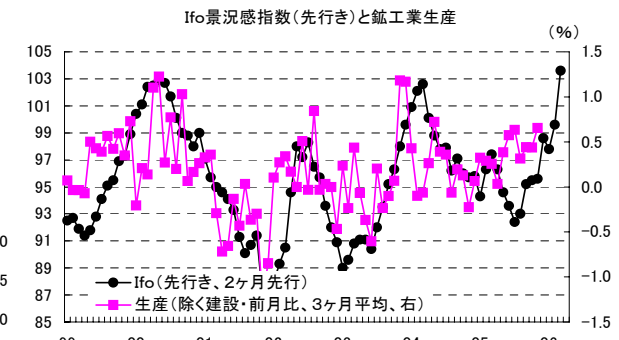
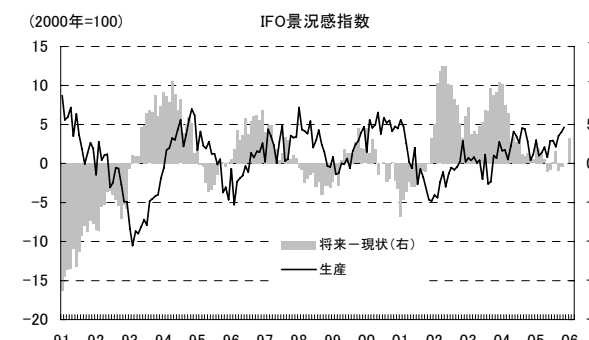
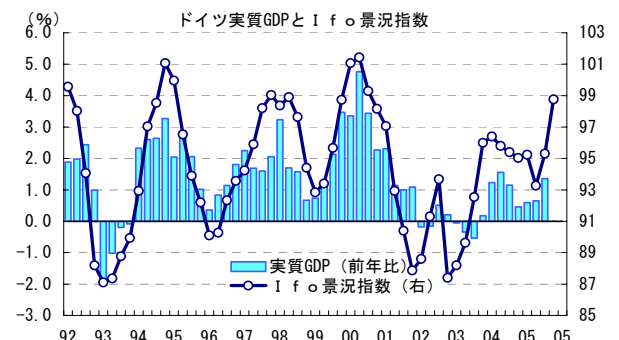
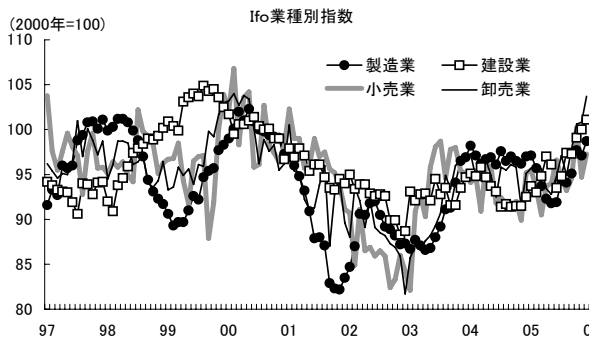
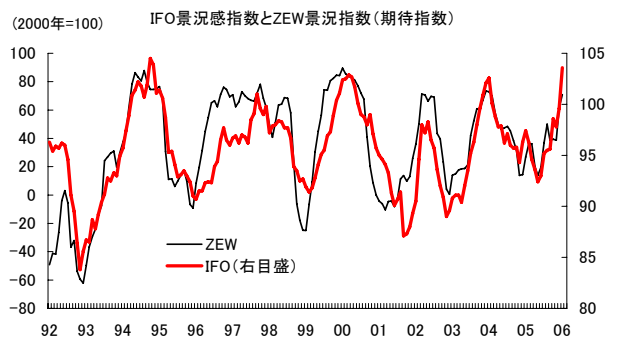
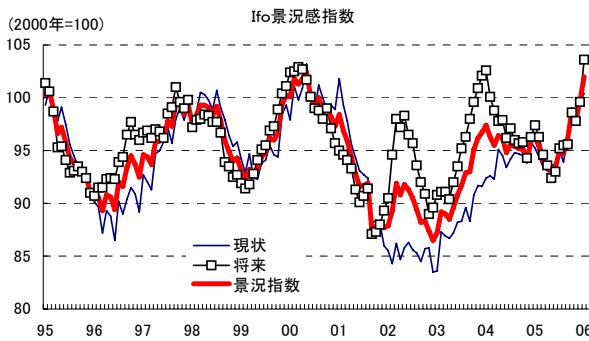
一方、卸売業は5ヶ月ぶりに指数低下となったが、ここ数ヶ月間の改善幅が大きかったことから、一時的な調整と考えられる。I f oのコメントによれば「事業見通しについてはよ

り自信を強めている」とのことなので、特に心配は要らないだろう。

企業マインドの上昇、生産や設備投資の拡大は当面続く

先述した通り、足元では景気に対するリスクが見受けられるようになっている。11月に1ユーロ=1.17ドルを割り込んだ為替相場が同1.23ドル近辺まで戻している他、イランの核を巡る緊張やナイジェリアの情勢不安を受けて、北海ブレントは1バレル=65ドルを超え、8月に記録した最高値(67ドル)まで迫っている。ただ、ドイツ企業は積極的なリストラにより収益性を高めていることもあり、ある程度の外部環境の変化には対応できる体質になっていることに加えて、これらの懸念以上に景気回復に対して自信があることから、現段階ではそれほど悲観的な見方は見られていない。

各種統計から判断すると、企業部門では海外需要の拡大を背景に輸出が増加し、それが生産活動の活発化をもたらし、設備投資の拡大につながる、という綺麗な循環図を描いている。先行きについても海外需要が堅調に推移すると見られることや、受注が好調であることから、企業家のマインドが上昇し、生産や設備投資の拡大に繋がるという一連の流れは当面続くだろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。